

旧山繁商店は「玉手箱」

(Bグループ)

～水・土・木・火と（みずときびと）～

(Aグループ)

(Cグループ)

テーブルトークの留意点

1. 「間屋」「陶磁器」の意味することを深めよう。
2. 空間全体及び建物別・部屋別にどんな使い方がいいか、想いをふくらませよう。
3. 「保存活用計画」への参加は「企画」「設計」「運営」の諸段階があり、その在り方を提案しよう。
4. 地域と陶器をめぐる歴史・記憶をたどり、関連するまちづくり活動のすそ野をひろげよう。
5. 活動を持続しながら、仲間を幅広く育もう。

ここで〇〇したい！

ここが〇〇な居場所になったら…（様々な意見）

全体 ・ここは「繋ぐ」場（人と人、空間と空間、まち、歴史）

- ・思い出、出会いの場に
- ・未完成の場＝育つ場 ・南北と東西の場内通路をオープンに

離れ・堀「玄関口として重要」「迎賓館」の機能」

- ・飲食店、宿泊所、茶室
- ・瀬戸の迎賓館（お茶でおもてなし、良質の陶磁器と上質な食事）

事務所「インフォメーションの場」「管理の場」

- ・高齢者の方の集いの場、受付

旧事務所「インフォメーションの場」

- ・2階を滞在型の創造活動者の宿舎や資料館に
- ・ラジオやネットの情報発信スタジオ

土蔵「大人の集える場」「隠れ家的空間」

- ・ちいさなバル、レストラン

新小屋「オシャレで梁がきれいな大人の空間」「職人工房」

- ・教室（英会話・着付け・料理）、陶芸等の体験工房
- ・カフェ、レストラン、パーティ会場、ギャラリー

3つの倉庫群「イベントホール」「山繁活用の核」

- ・コンサート会場、演劇・パフォーマンス・多用途のイベント会場
- ・子育ての母子が集える場、本の読み聞かせ会場
- ・瀬戸の昔の風景映像や映画を見る小劇場

主屋（母屋）跡の空間「落ち着いた空間に」「ぶらっと立ち寄れる空間に」

新小屋南の「シタノコヤ」跡の空間

- ・駐車場、公園・庭園

誰がするのか

- ・山繁の建物群全体で一つの団体が運営をするのではなく、いくつかのブロックでそれぞれを運営する団体が集まって構成される形態ではどうか。
- ・飲食や物販等の収益事業は企業やテナント、全体管理やイベントスペースの貸出し等は指定管理者による運営ではどうか。
- ・若い人（瀬戸で学びながら働く場として）
- ・海外とのつながりをもち広く情報発信できる団体
- ・名古屋などの観光ツアー事業者
- ・アート活動をしている団体
- ・地元のもの販売は各組合に参加してもらう。



今後の進め方や課題について

- ・若者（学生・子ども）の意見を取り入れる。
- ・「瀬戸らしさ」を表現するために、多種多様な瀬戸の人に参加してもらおう。（作家、建築士、パフォーマー、落語家など）
- ・多様な参加者に、山繁の保存修理の企画段階から加わってもらうことが重要。
- ・取りくみについてのPR（チラシ、HP、SNS、口コミ）
- ・瀬戸の食器が、食生活と結びつく生活提案や楽しみの場所になっていきたい。
- ・宿泊機能は、瀬戸では不足しているが、まちまるごとで補うべき！
- ・旧山繁商店へのアプローチ、表玄関はどこにするのか。
- ・「奥倉庫」の広い空間は、日常使いと非日常のイベントとの使い分けがうまくできると成功するのではないかな。



旧山繁商店の9件の建造物